



お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです。

年度変わりに伴う 変更はございませんか



日頃よりMMWINシステムをご利用いただき、ありがとうございます。

今年度も残り少なくなってきましたが、年度変わりに伴う、人事異動等はありませんでしょうか。MMWINシステムを円滑にご利用いただくためにも、変更等がある場合は、担当営業またはMMWIN事務局までお早めにお問い合わせください。

あわせて、新年度にシステム変更等のご予定がある施設様につきましても、お早めにご連絡いただきますようお願いいたします。

職員登録の変更等



- 施設内情報管理者の変更
- 人事異動に伴う施設変更
- 退職に伴う登録中止
- 新規職員の登録 等



システムの変更等



- 利用台数の変更
- システムリプレイス
- オンライン資格の導入
- ネットワークの変更
- プロバイダの変更 等



その他のお手続き等につきましても、ご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。



MMWIN

発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号

【事務局】 TEL：022-395-6312 FAX：022-395-6313

E-mail：office@mmwin.or.jp URL：http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】 TEL：022-399-6880 E-mail：support@mmwin.or.jp



当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



MMWIN® 通信

みんなのみやぎネット® NEWS

2022
3.25
vol. 68

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

診療予約時におけるMMWINの活用モデル

病院間における連携部門での「診療予約申し込みから受診」までの工程を、MMWIN参照システムを使って効率的に解決できるモデルをご紹介します。

現在の急性期病院との病・病連携の工程例

1. 紹介元病院は、患者さんの診療情報をFAX送信し、紹介先病院の診療予約を依頼する
2. 紹介先病院は、FAX受信後の診療情報を診療科に伝達し、診療予約日を確定した後に紹介元病院へ回答する
3. 紹介元は、検査画像（DVD化したもの）を患者さんに渡す
4. 紹介先の病院は、当日持参した紹介状および画像情報を電子カルテに取り込む
5. 登録（取り込み）完了通知を診療科に伝える

【課題】従来の工程から顕在化している課題

1. 電子カルテから診療情報を閲覧できるまでは診察を始めることができず、担当医は待機せざるを得ない
2. 電子カルテへの取り込み時間は、当日の受診患者の人数に依存してしまう
3. 電子カルテの取り込み件数が多い日には診療開始時間が遅れ、その結果、患者さんをお待たせすることになる

【改善点】

MMWINの利用により期待できる効果は以下の2点に整理できます。

1. 診療予約申込書に記載されていない診療情報を患者さんの来院前に参照できる
2. 来院当日の診療開始を円滑に、待ち時間短縮による患者さんの負担軽減にもなる

改善後でも工程はシンプル

紹介元においては、①対象患者のMMWIN加入状況を確認し、未加入であれば、②加入案内を実施、その後、③診療予約申込書内に対象患者のMMWIN共通IDを記載いたします。

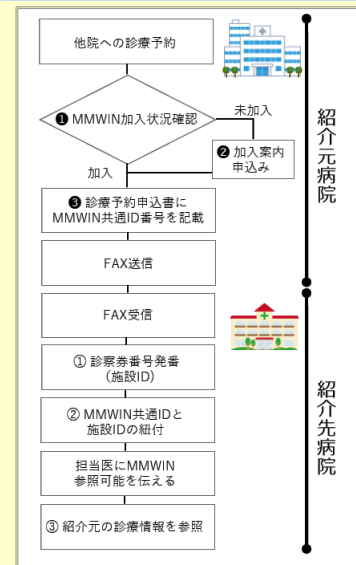
紹介先病院では、①診察券番号（施設ID）を発番し、②MMWIN共通IDと施設IDを紐付、担当医にMMWINで参照できる状況であることを伝え、③MMWINで診療情報を参照するというものです。大まかな手順は右図を参照ください。

病診連携にも展開

患者さんが急性期病院から在宅医療に移行する際に、「患者さん受け入れの要請が出た診療所では、すぐにでも診療情報を参照したい」との要望があります。急性期病院を受診されているタイミングでMMWINの登録を済ませておくことで、生活期への移行もスムーズに行えます。

～お問い合わせ先～

診療予約時におけるMMWINの活用、急性期病院から在宅医療に移行する際のMMWINの活用等に関するご要望・ご相談がございましたら、お気軽に担当営業もしくは事務局までご連絡ください。



歯科診療『MMWIN活用事例』紹介

【登米圏】 迫町佐沼

中江歯科クリニック

院長 前川 理人 先生



登米市 中江歯科クリニックの前川理人院長に、往診時の医科歯科連携についてお話を伺いました。



前川 理人 院長

基幹病院の検査情報参照

Q: まず、歯科におけるMMWINの活用事例について教えてください。

A: 登米市民病院に通院歴がある患者さんから「歯が腫れて口が痛い」という訴えがあり、往診に行くことになりました。その際、前に登米市民病院で口腔画像を撮影されたと聞き、MMWINで参照しました。前もって病名の予測をし、準備してから行ったことで、「骨髓炎」という現場での診断に生かすことが出来ました。特にCTやMRIなど画像参照出来る事が有効だと思います。普段は患者さんがCD-Rで画像データを持ててきますが、MMWINに加入している患者さんが増えれば、もっと活用の場が広がると思います。



周術期口腔機能スクリーニングでの活用

Q: 登米市民病院との連携で、周術期口腔機能管理はどの様に展開されているのでしょうか。

A: 大崎市民病院で行なっている周術期口腔機能管理と同様の連携が、今後登米市民病院でもスタートします。ただ大崎市民病院と違う所は、登米市民病院の場合は外傷手術の方が多い、ということ。その為、例えば癌などの予定手術の患者さんと比べて、患者さんが歯科を受診してから手術までの日数が少ない。そこで、患者さんが MMWINに加入していれば、現在はメールやFAXで行なっているデータのやりとりが、より早くスムーズに出来ます。送り先を間違えう事も無いですね。患者さんにはどんどん加入して欲しいです。個人情報の絡みもあると思いますが、患者さんがもっと簡単に加入できるようになる事が、今後のMMWINの課題ではないでしょうか。

コロナ禍における口腔ケアの重要性

Q: 現在のコロナ禍において、口腔環境はどう関係してくるのでしょうか。

A: 口腔内の衛生管理によって、コロナがどの程度抑制されるかは、まだ具体的にはわかっていません。ただ、口の中の細菌数を少しでも減らすことが色々な病気の予防になります。口は、栄養・空気・細菌など、全てが通る道。そもそもこれらが同じ通り道を通ることが問題であり、その中で細菌をいかに減らすかが重要です。細菌の代謝産物である酵素が粘膜を破壊します。粘膜を破壊されると、ウィルスに感染しやすくなるんです。登米市歯科医師会の中でもコロナの対策委員会を立ち上げて話し合いを重ね、このポスターを作りました(右に添付)。登米市歯科医師会の全ての会員施設に貼ってあります。MMWINの活用と少し離れた話になりますが、ぜひMMWIN通信にも載せて頂けたらありがたいです。

患者の皆様へ

ご存知ですか！
“歯磨き”がコロナ感染予防に効果あり！
 先日NHKの朝のニュース番組『朝はよう日』で放送...
 つまり、歯磨きが不十分だと、口の中の中の細菌が増えて、お口の粘膜を傷つ「肺炎」をたくさん発症するとの、ウイルスなどから身を守るバリアーの力が弱くなり、感染しやすくなるんだそうです。
もう一つ大事なこと！
“誤嚥性肺炎”
 ご存知のように食べ物や、唾液が「誤って」気管から肺に入って起こる 病気です(若い人でも起こります)
 70歳以上の肺炎の約80%が誤嚥性肺炎と言われています。
 歯磨きが不十分だと、口の中の中層にたまった細菌が喉とどもりに気管内に侵入し、**重い肺炎**を引き起こすこともあります。
 コロナ肺炎感染拡大が心配される “命”
 コロナ肺炎と誤嚥性(細菌性)肺炎の合併症も危険なれます
なおさら丁寧な歯磨きを心がけましょう
歯磨きもとても大切です
口腔ケアは元気で暮らす第一歩です！
 お口のことはかかりつけ歯科医に相談して
 歯磨き指導を受けましょう
 登米市歯科医師会

MMWIN加入推進活動

【仙台圏】 太白区

仙台西多賀病院

診療情報管理士 秀城克美 様



仙台西多賀病院 診療情報管理士の秀城克美様に、加入推進活動の状況についてお話を伺いました。



秀城克美 様

平成23年3月、東日本大震災の津波により医療施設のみならず診療録やレントゲン写真、また、電子カルテが大きな被害を受け、患者さんの情報を失ってしまう大惨事でした。

宮城県は平成24年6月にMMWINという画期的な事業を開始し、10年になります。当院は、平成29年6月より患者登録を開始し、令和元年に画像情報参照のサービスも開始となりました。しかし、登録患者はなかなか増えず、どちらかというと他院で加入された患者さんの紐付け登録が主でした。

当院の重症病棟80床、筋ジス病棟240床の長期入院患者さんは、急な病状変化により、他の医療機関に診療依頼するため転院されることが多く、主治医は診療情報提供書作成、画像のCD出力と、とにかく慌ただしく対応しています。

また、整形外科は入院患者の高齢化により、他医診療の内服治療されている方が多く、持参薬確認や病状や検査結果などはかかりつけ医へ照会をお願いをしており、お返事を待つ状況です。

そんな中、MMWINさんより加入案内コーナー開設のお知らせをいただきました。

令和3年8月より開設し、毎週火曜日と木曜日に案内スタッフさんにより加入手続きをしていただいております。現在、510名の患者さんが登録されました。



そのうち、重症病棟(80床)は近医の仙台赤十字病院さんへ患者さんをお願いすることが多く、担当の医師より「ぜひ患者さんをMMWINに加入を」とおすすめいただきましたので、当職員より患者さんのご家族へ連絡し、43名の加入に成功しました。

当初は、データのバックアップが目的のMMWINですが、今般、患者さんを取り巻く地域包括ケアシステムを構築すべく医療機関や薬局、訪問看護ステーションが、情報を共有することで一貫した医療提供できるメリットがあり、患者さんにとっても同じ検査を何度も受けずに済みます。これからも多くの患者さんが加入されますよう協力していきます。

